



平成 23 年 7 月 15 日

各 位

ゲンダイエージェンシー株式会社
代表取締役 CEO 山本 正卓
(コード番号：2411)
問い合わせ先 取締役 CFO 高 秀一
TEL 03-5308-9888(代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

当第 1 四半期累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、平成 23 年 4 月 15 日付
当社「平成 23 年 3 月期決算短信」にて発表いたしました平成 24 年 3 月期の連結業績予想（第 2 四半期累計およ
び通期）を、下記のとおり修正いたします。

記

平成 24 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想の修正（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 平成 23 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想（A）（平成 23 年 4 月 15 日発表）	6,400	108	100	60	645.16
今回修正予想（B）	7,530	538	530	390	4,193.55
増減額（B－A）	1,130	430	430	330	
増減率	17.7%	398.1%	430.0%	550.0%	
（参考）前年第 2 四半期 （平成 23 年 3 月期第 2 四半期）実績	10,001	975	983	538	5,731.11

平成 24 年 3 月期連結業績予想の修正（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想（A）（平成 23 年 4 月 15 日発表）	14,600	707	700	400	4,301.08
今回修正予想（B）	16,230	1,307	1,300	840	9,032.26
増減額（B－A）	1,630	600	600	440	
増減率	11.2%	84.9%	85.7%	110.0%	
（参考）前年同期（平成 23 年 3 月期）実績	19,135	1,679	1,683	864	9,247.41

（修正の理由）

前回発表予想については、当社「平成 23 年 3 月期決算短信」2 頁において記載のとおり、多数の未確定事項が
存在する状況下において、合理的と判断される仮定を設けて試算した暫定業績予想と位置づけておりました。

その後、当該仮定に関して、より精度の高い情報が収集されつつあることを踏まえ、今回、それらの情報をもとに、広告事業セグメントの予想値を再集計したことから、業績予想の修正を実施することといたしました。

1. 売上高の修正理由

広告事業セグメントにおける、主として、以下の2点の影響によるものであります。

- A. 直接的被害のあった仙台、郡山営業所の当社顧客における広告需要の大幅減少を見込んでいたところ、その後の需要回復が急激に進んだことによる当初予想比超過見込み。
- B. 震災に伴う業界団体の取り決めによる全国的な広告自粛による需要の減少予想に対して、主に中部以西エリアにおける当該自粛の解除が、当初想定よりも早かったことによる当初予想比超過見込み。

なお、当初の仮定と、その後の情報を踏まえた上での見直しの結果、および前回発表予想に対する今回発表予想の売上高増減額の項目別内訳は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	影響額の 当初暫定予想 (年間)	影響額の 今回修正予想 (年間)	第2四半期 累計期間の 増減額	通期の 増減額
(1) 当初暫定予想開示時点において、当社が影響額を試算するために仮定した、未確定事項				
①直接的被害のあった仙台、郡山営業所の売上高減少	△1,200	△300	+400	+900
②震災に伴う業界団体の取り決めによる広告自粛による売上高減少	△1,600	△3,000	+600	+600
③夏場の電力問題に起因するホール営業の変化と、その間接的な広告需要への影響がもたらす売上高減少	△2,000	(注)	(注)	(注)
(2) その他の差異	—	—	+130	+130
合 計	△4,800	△3,300	+1,130	+1,630

(注) 当初暫定予想において区分していた(1)②及び③については、現時点においても、節電等を目的とした自粛活動の一環としての広告規制や自発的な広告出稿の抑制が見られる等、明確な区別が困難となったことから、今回発表予想の算定に当たっては、一括で集計しております。

2. 営業利益、経常利益および(四半期)純利益の修正理由

営業利益、経常利益及び(四半期)純利益につきましては、広告事業セグメントにおける売上高の当初予想比超過に伴うマージンの超過に加えて、デザイン業務の内製化等のコスト削減策を講じたこと等により売上総利益が当初予想を超過する見込みであること等から、前回発表予想比でそれぞれ増加する見込みであります。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上